広島大学大学院教育学研究科紀要　第三部　第54号　2005　281－288

幼児の社会的適応と攻撃タイプ (1)

越中康治・滝下雅子[1]・前田健一

(2005年9月30日受理)

Preschoolers' social adjustment and their types of aggression (1)

Koji Etchu, Masako Takishita, and Kenichi Maeda

The purpose of this study was to examine the relations between preschoolers' social adjustment and their types of aggression. Preschoolers were administered measures of positive and negative sociometric nominations and peer behavioral assessments of provocative, retaliative, and punitive aggression. The results were as follows: (1) Children who showed provocative aggression were likely to be rejected by peers. (2) Children who showed retaliative or punitive aggression were not likely to be rejected by peers. (3) Girls who showed punitive aggression were likely to be popular among girls. The results indicate that aggression has not always been associated with peer rejection.

Key words: types of aggression, social adjustment, preschooler
キーワード：攻撃タイプ，社会的適応，幼児

問　題

これまで，子どもの社会的適応状態に関しては，ソシオメトリック・テストによって測定されたソシオメトリック地位や仲間集団における人気度を指標として研究が進められてきた。本邦においても，社会的適応状態と攻撃性や社会的スキルなどの行動的側面（前田・片岡，1993）及び孤独感などの認知・感情的側面（前田，1995）との関連が明らかにされており，既に一定の研究成果が蓄積されている。仲間から拒否される原因となる不適応行動を明らかにしようとした研究においては，特に，子どもが示す攻撃行動が注目を集めてきた。そして，多くの研究から，攻撃行動を示すことが，仲間から拒否される原因の1つであることが明らかにされている（e.g., Coie & Kupersmidt, 1983; Dodge, 1983）。

しかしながら，前田・片岡（1993）は，幼児を対象とした研究において，仲間から積極的に好かれている幼児の中にも攻撃性を示す者が含まれている可能性を示唆し，攻撃性の質的相違に注目していく必要性を指摘している。そもそも，児童を対象とした研究においては，Lesser（1959）が，挑発的攻撃（自ら仕掛ける攻撃）を示す児童は仲間から拒否されるが，報復的攻撃（仕返しのための攻撃）を示す児童はむしろ仲間から受容されることを指摘している。しかしながら，その後の研究においては，攻撃性の質的相違については積極的な検討がなされておらず，特に，幼児期における社会的適応と攻撃の質との関連は明らかにされてこなかった。

こうした問題を踏まえ，越中（印刷中）は，攻撃のタイプと仲間評価との関連を実験的に検討している。挑発的攻撃及び報復的攻撃に，制裁としての攻撃（直接被害を受けていない第三者が，不当なことをした人に対して加える攻撃）を加えて，場面想定法を用いた実験を行い，各タイプの攻撃行動を示した人物を，幼児がどの程度受容できると判断するかを比較検討した。結果として，幼児は，挑発的攻撃を示した人物を明らかに拒否する一方で，報復的攻撃及び制裁としての攻撃を示した人物をある程度受容する傾向にあった。

以上の結果を踏まえ，越中・中村・前田（2003）では，異年齢集団における幼児の社会的適応と関連する諸要因（月齢，言語能力，社会的行動特徴）についての研究の中で，幼児が示す攻撃のタイプ（挑発的攻撃，

[1]広島大学大学院教育学研究科博士課程前期

報復的攻撃，制裁としての攻撃）と幼児が実際に仲間から受ける評価との関連を検討している。結果としては，男児において，制裁としての攻撃が，敵味方の多い社会的影響力の強い男児にみられる攻撃タイプである可能性が窺われた。また，女児において，挑発的攻撃及び報復的攻撃が，月齢や言語能力が低く，社会的行動に未熟な面のある者に認められる攻撃タイプであるのに対して，制裁としての攻撃は，仲間から受容されている者に認められる攻撃タイプである可能性が窺われた。しかしながら，越中他（2003）では，攻撃タイプに関する仲間アセスメントの項目数が1項目と少なく，攻撃タイプの測定が，十分に信頼できるものとは言いがたい。

そこで，本研究では，攻撃タイプに関する仲間アセスメントの項目数を増やし，攻撃タイプと社会的適応及び諸要因との関連について，越中他（2003）に引き続いて検討を行うこととする。なお，幼児の社会的適応に関する従来の研究においては，同性の仲間からの評価と異性の仲間からの評価とを区別して扱うことが少なかったとの指摘がなされている（中台・金山・前田，2002）。こうした指摘を踏まえ，本研究では，異性からの評価と同性からの評価とを区別して検討を行うこととする。

本研究の第１の目的は，幼児が示す攻撃タイプ（挑発的攻撃，報復的攻撃，制裁としての攻撃）と幼児の社会的適応状態との関連について検討を行うことである。社会的適応状態の指標としては，中台他（2002）を参考にして，仲間からの人気度を用いる。先行研究（越中，印刷中；越中他，2003）を踏まえると，挑発的攻撃を示す幼児は仲間から拒否されやすいのに対して，報復的攻撃及び制裁としての攻撃を示す幼児は，必ずしも仲間から拒否されないことが予想される。

本研究の第２の目的は，幼児が示す攻撃タイプ（挑発的攻撃，報復的攻撃，制裁としての攻撃）と幼児の月齢，言語能力及び社会的行動特徴との関連について，探索的に検討を行うことである。

なお，本研究では，越中他（2003）に引き続き，異年齢集団を対象として，幼児の社会的適応と関連する諸要因（月齢，言語能力，社会的行動特徴）についての検討も併せて行う。

方　法

１．参加者と調査時期

第１著者が保育士として勤務する東広島市内の保育園の異年齢クラスに所属する男児13名，女児14名を対象として，2004年３月中旬から下旬にかけて実施した。調査時期の平均月齢と月齢範囲は，男児が60ヶ月（50ヶ月～70ヶ月），女児が57ヶ月（49ヶ月～72ヶ月）であった。対象とした保育園は2003年４月に新規開園されており，参加者は，調査時期の段階で，同園の異年齢クラスにおいて，約１年間の集団生活を送っていたこととなる。なお，同クラスは，2003年９月に，越中他（2003）においても調査対象となっている。

２．手続き

写真ソシオメトリック指名法，攻撃タイプに関する仲間アセスメント，社会的行動特徴に関する仲間アセスメント，絵画語い発達検査をセットにして，個別面接で実施した。

(1) 写真ソシオメトリック指名法

前田・片岡（1993）及び中台他（2002）に従って，写真ソシオメトリック指名法を実施した。同性の仲間に関する指名と，異性の仲間に関する指名を，それぞれ分けて行った。各性別の仲間全員の写真カードを机上に配列し，名前を確認させた後，肯定的指名（一緒に遊びたい子は誰ですか）及び否定的指名（一緒に遊びたくない子は誰ですか）をそれぞれ上位３名まで求めた。

なお，前田（1998）は，否定的指名が実施後の仲間関係に有害な影響を及ぼさないとしながらも，実施に際しては，倫理的・道徳的問題を十分に考慮することの必要性を指摘している。本研究においても，実施に際して，前田（1998）に従い，可能な限りの配慮を行った。なお，実施後も，第１著者が担任保育士として，幼児の様子に細心の注意を払ったが，幼児の仲間関係等にトラブルは生じなかったことを付け加えておく。

(2) 攻撃タイプに関する仲間アセスメント

越中他（2003）の攻撃タイプに関する仲間アセスメントをもとに，アセスメントの項目数を増やして実施した。同性の仲間に関する指名と，異性の仲間に関する指名を，それぞれ分けて行った。挑発的攻撃（「何も悪いことをしていないお友達に意地悪する子」「自分の思い通りにならないと，すぐに怒る子」「お友達がおもちゃを貸してくれないときに，怒って勝手に取る子」），報復的攻撃（「お友達に意地悪されたときに，『やめて』と怒る子」「お友達に嫌なことをされたときにやり返す子」「お友達におもちゃを取られたときに，怒って取り返す子」），制裁としての攻撃（「他の子に意地悪するお友達がいたときに，『ダメ』と怒る子」「悪いことをしたお友達のことを怒る子」「友達のおもちゃを勝手に取る人がいたとき，『ダメ』と怒る子」）の各３項目について，該当すると思う仲間をそれぞれ上位３名まで指名するよう求めた。

(3) 社会的行動特徴に関する仲間アセスメント

前田・片岡（1993）の社会的行動特徴に関する仲間アセスメントのうち，社会的コンピタンスと引っ込み思案に関するアセスメントを実施した。同性の仲間に関する指名と，異性の仲間に関する指名を，それぞれ分けて行った。社会的コンピタンス（「みんなと仲良く遊ぶのが上手な子」「お友達に親切でやさしい子」「みんなから人気がある子」），引っ込み思案（「お友達にあまり話しかけない子」「おとなしい子」「お友達とあまり遊ばない子」）の各３項目について，該当すると思う仲間をそれぞれ上位３名まで指名するよう求めた。

(4) 絵画語い発達検査

上野・撫尾・飯長（1991a）の絵画語い発達検査〔1991年修正版〕を実施した。

３．得点化の方法

(1) 写真ソシオメトリック指名法

得点化は，同性からの評価と異性からの評価とに分けて行った。前田・片岡（1993）及び中台他（2002）を参考にして，まず，参加者ごとに仲間から受けた肯定的指名数と否定的指名数をそれぞれ集計した。その後，同性からの評価に関しては，参加者が受けた指名数を，本人を除く同性仲間数で除算した。異性からの評価に関しては，参加者が受けた指名数を，異性仲間数で除算した。このようにして，各参加者について，同性及び異性の仲間一人あたりから受けた指名数を算出し，それぞれ肯定的指名得点，否定的指名得点とした。さらに，この２つの得点から，影響性得点（肯定的指名数＋否定的指名数）及び好意性得点（肯定的指名数－否定的指名数）を算出した。

(2) 攻撃タイプに関する仲間アセスメント

得点化は，同性からの評価と異性からの評価とに分けて行った。まず，参加者ごとに，挑発的攻撃，報復的攻撃，制裁としての攻撃で被指名数を集計した。その後，写真ソシオメトリック指名法の得点化と同様に，同性及び異性の仲間一人あたりから受けた指名数を算出し，それぞれ挑発的攻撃得点，報復的攻撃得点，制裁としての攻撃得点とした。同性からの評価と異性からの評価それぞれについて，男女込みでCronbachのα係数を算出し，内的一貫性を検討したところ，同性からの評価においては，挑発的攻撃で$\alpha = .84$，報復的攻撃で$\alpha = .67$，制裁としての攻撃で$\alpha = .62$，異性からの評価においては，挑発的攻撃で$\alpha = .81$，報復的攻撃で$\alpha = .68$，制裁としての攻撃で$\alpha = .63$であった。各得点は高いほど，各攻撃行動を示すことが多いことを意味する。

(3) 社会的行動特徴に関する仲間アセスメント

得点化は，同性からの評価と異性からの評価とに分けて行った。まず，各尺度ごとに，参加者が仲間から指名された数を集計した。その後，同性及び異性の仲間一人あたりから受けた指名数を算出し，それぞれ社会的コンピタンス得点，引っ込み思案得点とした。なお，同性からの評価と異性からの評価それぞれについて，男女込みでCronbachのα係数を算出し，内的一貫性を検討したところ，同性からの評価においては，社会的コンピタンスで$\alpha = .82$，引っ込み思案で$\alpha = .37$，異性からの評価においては，社会的コンピタンスで$\alpha = .85$，引っ込み思案で$\alpha = .15$であった。引っ込み思案に関しては内的一貫性が確認されなかったが，本研究においては，参考までに結果を示すことを付け加えておく。

(4) 絵画語い発達検査

上野・撫尾・飯長（1991b）の絵画語い発達検査手引〔1991年修正版〕に従って，検査結果を語い年齢（以下，「語彙年齢」と表記する）に換算した。語彙年齢とは，言語能力の重要な側面である語彙理解力が，どのくらいの年齢水準にあるかを示す指標である。

結　果

１．攻撃タイプと人気度との関連

(1) 男児における攻撃タイプと人気度との関連

攻撃タイプと人気度との関連を検討するためにピアソンの相関係数を算出した。男児における同性(男児)からの評価（Table 1）に関しては，挑発的攻撃得点が，否定的指名得点との間に正相関の有意傾向（$r = .54$, $p<.10$），好意性得点との間に負相関の有意傾向（$r = -.50$, $p<.10$）を示した。

Table 1　男児における攻撃タイプと仲間からの人気度との相関係数（同性からの評価）

	挑発	報復	制裁
肯定的指名得点	-.19	-.21	-.02
否定的指名得点	.54 †	.29	.26
影響性得点	.29	.09	.21
好意性得点	-.50 †	-.34	-.19

注）† $p<.10$（両側検定）

男児における異性（女児）からの評価（Table 2）に関しては，挑発的攻撃得点と否定的指名得点（$r = .72$, $p<.01$）及び影響性得点（$r = .56$, $p<.05$）との間に有意な正相関がみられた。また，報復的攻撃得点と影響性得点との間に有意な正相関がみられた（$r = .61$, $p<.05$）。

なお，各攻撃得点同士の相関は，同性からの評価に

Table 2　男児における攻撃タイプと仲間からの人気度との相関係数（異性からの評価）

	挑発	報復	制裁
肯定的指名得点	-.06	.35	.01
否定的指名得点	.72 **	.33	.47
影響性得点	.56 *	.61 *	.42
好意性得点	-.45	.03	-.27

注）** p<.01, * p<.05（両側検定）

おいて，挑発的攻撃得点と報復的攻撃得点との間で r = .86（p<.01），挑発的攻撃得点と制裁としての攻撃得点との間で r = .80（p<.01），報復的攻撃得点と制裁としての攻撃得点との間で r = .81（p<.01），異性からの評価において，挑発的攻撃得点と報復的攻撃得点との間で r = .59（p<.05），挑発的攻撃得点と制裁としての攻撃得点との間で r = .85（p<.01），報復的攻撃得点と制裁としての攻撃得点との間で r = .63（p<.05）と，いずれも有意な正相関を示した。

(2) 女児における攻撃タイプと人気度との関連

攻撃タイプと人気度との関連を検討するためにピアソンの相関係数を算出した。女児における同性(女児)からの評価（Table 3）に関しては，挑発的攻撃得点と否定的指名得点との間に有意な正相関がみられた（r = .56, p<.05）。また，制裁としての攻撃得点と肯定的指名得点との間に有意な正相関がみられた(r = .63, p<.05)。

Table 3　女児における攻撃タイプと仲間からの人気度との相関係数（同性からの評価）

	挑発	報復	制裁
肯定的指名得点	-.09	.20	.63 *
否定的指名得点	.56 *	.30	-.09
影響性得点	.42	.43	.45
好意性得点	-.41	-.07	.43

注）* p<.05（両側検定）

女児における異性（男児）からの評価（Table 4）に関しては，挑発的攻撃得点が，否定的指名得点との間に有意な正相関（r = .54, p<.05）を，好意性得点との間に有意な負相関（r = -.61, p<.05）を示した。さらに，挑発的攻撃得点は，肯定的指名得点との間にも負相関の有意傾向を示した（r = -.52, p<.10）。

なお，各攻撃得点同士の相関は，同性からの評価では，挑発的攻撃得点と報復的攻撃得点との間で r = .56（p<.05），報復的攻撃得点と制裁としての攻撃得点との間で r = .58（p<.01）と有意な正相関を示したが，挑発的攻撃得点と制裁としての攻撃得点との間には有意な相関は認められなかった（r = .41, *n.s.*）。異性からの評価では，報復的攻撃得点と制裁としての攻撃得点との間で r = .71 (p<.05) と有意な正相関を示したが，挑発的攻撃得点と報復的攻撃得点との間(r = .24, *n.s.*)及び挑発的攻撃得点と制裁としての攻撃得点との間(r = .05, *n.s.*）には，有意な相関は認められなかった。

Table 4　女児における攻撃タイプと仲間からの人気度との相関係数（異性からの評価）

	挑発	報復	制裁
肯定的指名得点	-.52 †	-.19	.03
否定的指名得点	.54 *	.39	.04
影響性得点	-.03	.15	.05
好意性得点	-.61 *	-.33	.00

注）* p<.05, † p<.10（両側検定）

2．攻撃タイプと諸測度との関連

(1) 男児における攻撃タイプと諸測度との関連

攻撃タイプと諸測度（月齢，語彙年齢，社会的コンピタンス，引っ込み思案）との関連を検討するためにピアソンの相関係数を算出した。男児における同性(男児）からの評価（Table 5）に関しては，まず，挑発的攻撃得点が，社会的コンピタンスとの間に有意な負相関を示した（r = -.71, p<.01）。次に，報復的攻撃得点が，月齢との間に有意な正相関（r = .71, p<.01），社会的コンピタンスとの間に有意な負相関（r = -.67, p<.05）を示した。さらに，制裁としての攻撃得点が，月齢との間に有意な正相関（r = .59, p<.05），社会的コンピタンスとの間に負相関の有意傾向（r = -.52, p<.10）を示した。

Table 5　男児における攻撃タイプと諸測度との相関係数（同性からの評価）

	挑発	報復	制裁
月齢	.47	.71 **	.59 *
語彙年齢	.03	.31	-.03
コンピタンス	-.71 **	-.67 *	-.52 †
引っ込み思案	-.38	-.45	-.16

注）** p<.01, * p<.05, † p<.10（両側検定）

男児における異性（女児）からの評価（Table 6）に関しては，報復的攻撃得点と月齢との間に有意な正相関がみられ（r = .59, p<.05），制裁としての攻撃得点

Table 6　男児における攻撃タイプと諸測度との相関係数（異性からの評価）

	挑発	報復	制裁
月齢	.19	.59 *	.55 †
語彙年齢	-.10	.09	.12
コンピタンス	-.21	.23	-.14
引っ込み思案	-.36	-.16	-.49

注）* p<.05, † p<.10（両側検定）

と月齢との間にも正相関の有意傾向がみられた（$r = .55$, $p<.10$）。

(2) 女児における攻撃タイプと諸測度との関連

攻撃タイプと諸測度（月齢，語彙年齢，社会的コンピタンス，引っ込み思案）との関連を検討するためにピアソンの相関係数を算出した。女児における同性(女児）からの評価（Table 7）に関しては，制裁としての攻撃得点と引っ込み思案得点との間にのみ，有意な負相関がみられた（$r = -.54$, $p<.10$）。

Table 7　女児における攻撃タイプと諸測度との相関係数（同性からの評価）

	挑発	報復	制裁
月齢	-.35	-.23	.24
語彙年齢	-.23	.02	.41
コンピタンス	-.13	-.06	.42
引っ込み思案	-.24	-.23	-.54 *

注）* $p<.05$（両側検定）

女児における異性（男児）からの評価（Table 8）に関しては，報復的攻撃得点が，語彙年齢との間に有意な正相関を示した（$r = .60$, $p<.05$）。また，制裁としての攻撃が，月齢（$r = .56$, $p<.05$）及び語彙年齢（$r = .71$, $p<.01$）との間に有意な正相関を示した。

Table 8　女児における攻撃タイプと諸測度との相関係数（異性からの評価）

	挑発	報復	制裁
月齢	-.21	.41	.56 *
語彙年齢	-.22	.60 *	.71 **
コンピタンス	-.29	.20	.30
引っ込み思案	.12	-.13	-.30

注）** $p<.01$, * $p<.05$（両側検定）

3．人気度と諸測度の関連

(1) 男児における人気度と諸測度との関連

人気度と諸測度との関連を検討するためにピアソンの相関係数を算出した。男児における同性（男児）からの評価（Table 9）に関しては，社会的コンピタンスのみが，肯定的指名得点（$r = .65$, $p<.05$）及び好意性得点（$r = .73$, $p<.01$）との間に有意な正相関を示した。

Table 9　男児における仲間からの人気度と諸測度との相関係数（同性からの評価）

	肯定	否定	影響性	好意性
月齢	-.29	-.23	-.36	-.02
語彙年齢	-.15	-.30	-.33	.12
コンピタンス	.65 *	-.44	.12	.73 **
引っ込み思案	.14	.18	.23	-.05

注）** $p<.01$, * $p<.05$（両側検定）

男児における異性（女児）からの評価（Table 10）に関しても，社会的コンピタンスのみが，肯定的指名得点（$r = .95$, $p<.01$）及び好意性得点（$r = .86$, $p<.01$）との間に有意な正相関を示した。さらに，社会的コンピタンスは，否定的指名得点との間に負相関の有意傾向（$r = -.48$, $p<.10$），影響性得点との間に正相関の有意傾向（$r = .49$, $p<.10$）を示した。

なお，男児では，月齢と語彙年齢との間に有意な正相関がみられた（$r = .59$, $p<.05$）。また，月齢及び語彙年齢と社会的行動特徴との関連を検討するためにピアソンの相関係数を算出したところ，同性からの評価において，社会的コンピタンスと月齢との間に負相関の有意傾向がみられた（$r = -.55$, $p<.10$）。また，引っ込み思案得点が，月齢（$r = -.71$, $p<.01$）及び語彙年齢（$r = -.59$, $p<.05$）との間に有意な負の相関を示した。異性からの評価においては，有意な相関は認められなかった。

Table 10　男児における仲間からの人気度と諸測度との相関係数（異性からの評価）

	肯定	否定	影響性	好意性
月齢	.43	-.21	.22	.38
語彙年齢	.32	-.41	-.05	.43
コンピタンス	.95 **	-.48 †	.49 †	.86 **
引っ込み思案	.21	-.14	.08	.20

注）** $p<.01$, † $p<.10$（両側検定）

(2) 女児における人気度と諸測度との関連

人気度と諸測度との関連を検討するためにピアソンの相関係数を算出した。女児における同性（女児）からの評価（Table 11）に関しては，まず，月齢が，肯定的指名得点との間に有意な正相関を示し（$r = .67$, $p<.01$），影響性得点（$r = .46$, $p<.10$）及び好意性得点（$r = .48$, $p<.10$）との間にも正相関の有意傾向を示した。次に，語彙年齢が，肯定的指名得点との間に有意な正相関を示し（$r = .73$, $p<.01$），影響性得点（$r = .51$, $p<.10$）及び好意性得点（$r = .52$, $p<.10$）との間にも正相関の有意傾向を示した。さらに，社会的コンピタンスが，肯定的指名得点（$r = .81$, $p<.01$）及び好意性得点（$r = .78$, $p<.01$）との間に有意な正

Table 11　女児における仲間からの人気度と諸測度との相関係数（同性からの評価）

	肯定	否定	影響性	好意性
月齢	.67 **	-.12	.46 †	.48 †
語彙年齢	.73 **	-.12	.51 †	.52 †
コンピタンス	.81 **	-.47 †	.28	.78 **
引っ込み思案	-.17	.14	-.02	-.18

注）** $p<.01$, † $p<.10$（両側検定）

相関を示す一方で，否定的指名得点との間に負相関の有意傾向を示した（$r = -.47$, $p<.10$）。

女児における異性（男児）からの評価（Table 12）に関しては，社会的コンピタンスが，肯定的指名得点（$r = .61$, $p<.05$）及び好意性得点（$r = .54$, $p<.05$）との間に有意な正相関を示した。また，引っ込み思案得点が，否定的指名得点との間に正相関を示し（$r = .55$, $p<.05$），影響性得点との間にも正相関の有意傾向を示した（$r = .49$, $p<.01$）。

なお，女児においても，月齢と語彙年齢との間に有意な正相関がみられた（$r = .86$, $p<.05$）。また，月齢及び語彙年齢と社会的行動特徴との関連を検討するためにピアソンの相関係数を算出したところ，同性からの評価において，社会的コンピタンスと月齢（$r = .56$, $p<.05$）及び語彙年齢（$r = .64$, $p<.05$）との間に有意な正相関がみられた。異性からの評価においては，有意な相関は認められなかった。

Table 12　女児における仲間からの人気度と諸測度との相関係数（異性からの評価）

	肯定	否定	影響性	好意性
月齢	-.07	.04	-.05	-.06
語彙年齢	.08	.10	.16	-.01
コンピタンス	.61 *	-.30	.37	.54 *
引っ込み思案	-.03	.55 *	.49 †	-.31

注）* $p<.05$, † $p<.10$（両側検定）

4．同性からの評価と異性からの評価との関連

同性からの評価と異性からの評価との関連を検討するために，ピアソンの相関係数を算出した。まず，各攻撃性得点に関して，同性からの評価と異性からの評価との相関を調べたところ，男児では，挑発的攻撃得点で $r = .76$ ($p<.01$)，報復的攻撃得点で $r = .88$ ($p<.01$)，制裁としての攻撃得点で $r = .70$（$p<.01$）と，いずれも有意な正相関を示した。女児では，挑発的攻撃得点で $r = .54$（$p<.05$），制裁としての攻撃得点で $r = .53$（$p<.05$）と有意な正相関を示したが，報復的攻撃得点では有意な相関は認められなかった（$r = .14$, *n.s.*）。

次に，人気度に関して，同性からの評価と異性からの評価との相関を調べたところ，男児では，否定的指名得点で $r = .77$ ($p<.01$)，好意性得点で $r = .60$ ($p<.05$) と有意な正相関を示したが，肯定的指名得点（$r = -.03$, *n.s.*）及び影響性得点（$r = .03$, *n.s.*）では有意な相関は認められなかった。女児では，否定的指名得点で $r = .49$（$p<.10$）と正相関の有意傾向がみられたが，肯定的指名得点（$r = .00$, *n.s.*），影響性得点（$r = .13$, *n.s.*）及び好意性得点（$r = .28$, *n.s.*）では有意な相関は認められなかった。

最後に，社会的行動特徴に関して，同性からの評価と異性からの評価との相関を調べたところ，男児では，社会的コンピタンス得点（$r = .12$, *n.s.*），引っ込み思案得点（$r = .37$, *n.s.*）ともに有意な相関は認められなかった。女児では，社会的コンピタンス得点で $r = .48$ ($p<.10$) と正相関の有意傾向がみられたが，引っ込み思案得点では有意な相関は認められなかった（$r = .15$, *n.s.*）。

考　察

1．攻撃タイプと社会的適応状態との関連

本研究の第1の目的は，幼児が示す攻撃タイプ（挑発的攻撃，報復的攻撃，制裁としての攻撃）と幼児の社会的適応状態との関連について検討を行うことであった。この点に関しては，結果として，男女ともに，同性からの評価，異性からの評価にかかわらず，挑発的攻撃を示す幼児が仲間から拒否されやすいことが明らかとなった。その一方で，報復的攻撃及び制裁としての攻撃に関しては，予想された通り，必ずしも仲間からの拒否と関連しないことが明らかとなった。

報復的攻撃に関しては，男児に対する女児の評価において，影響性得点と正相関を示した。この結果は，仲間から積極的に好かれている幼児（典型的には，ある仲間からは人気があるが，他の仲間からは拒否されている幼児）の中にも攻撃性を示す者が含まれている可能性があるという前田・片岡（1993）の指摘を裏づけるものである。さらに，制裁としての攻撃に関しては，女児の同性からの評価において，肯定的指名と正相関を示した。制裁としての攻撃に関して，越中他（2003）では，男児において，敵味方の多い社会的影響力の強い者に認められる攻撃タイプであり，女児において，仲間から受容されている者に認められる攻撃タイプである可能性が示唆されている。本研究においては，男児については同様の結果が認められなかったものの，女児については，一貫した結果が認められたといえる。

各攻撃得点同士の相関に関して，男児では，同性からの評価，異性からの評価にかかわらず，いずれも正相関を示した。女児においては，同性からの評価において挑発的攻撃と報復的攻撃の間及び報復的攻撃と制裁としての攻撃の間で，異性からの評価において報復的攻撃と制裁としての攻撃の間で正相関が認められた。以上のことから，3つのタイプの攻撃性については，それぞれ強い関連があるものと思われる。しかしながら，上述の通り，各タイプの攻撃性と社会的適応との関連は，それぞれ異なっていた。本研究から，攻

撃タイプによっては，仲間から積極的に受容されることと関連する可能性があることが明らかとなり，攻撃性と社会的適応との関連は一様ではない可能性が示唆された。

2．攻撃タイプと諸測度との関連

本研究の第２の目的は，幼児が示す攻撃タイプ（挑発的攻撃，報復的攻撃，制裁としての攻撃）と幼児の月齢，言語能力及び社会的行動特徴との関連について検討を行うことであった。まず，攻撃タイプと月齢及び言語能力との関連について，男児では，同性からも異性からも，月齢の高い者が報復的攻撃及び制裁としての攻撃を示すと評価されていることが明らかとなった。また，女児では，異性からの評価において，制裁としての攻撃が，月齢の高い者に認められる攻撃タイプであると評価されていることが明らかとなった。さらに，女児では，異性からの評価において，報復的攻撃及び制裁としての攻撃が，言語能力の高い者に認められる攻撃タイプであると評価されていることが明らかとなった。

以上のことから，報復的攻撃及び制裁としての攻撃は，年長の幼児に多く認められる攻撃タイプであるとみなされている可能性があるといえる。一方で，挑発的攻撃に関しては，本研究では，月齢及び言語能力との関連は明確とはならなかったが，越中他（2003）では，女児において，挑発的攻撃が，幼く言語能力の低い者に認められる攻撃タイプであると評価されている可能性が示唆されている。これらのことを踏まえると，攻撃性と月齢及び言語能力の関連は，攻撃のタイプによって異なるものといえる。

次に，攻撃タイプと社会的行動特徴との関連について，男児の同性からの評価においては，社会的コンピタンスと挑発的攻撃及び報復的攻撃との間に負相関がみられ，制裁としての攻撃との間にも負相関の有意傾向がみられた。報復的攻撃及び制裁としての攻撃は，仲間からの拒否とは関連を示さないものの，社会的に有能な行動ではないと評価されていることが窺える。また，参考までに，女児の同性からの評価においては，制裁としての攻撃と引っ込み思案とが負相関を示した。引っ込み思案得点に関しては，内的一貫性が確認されなかったため，明言することはできないが，大人しい者は制裁としての攻撃を示さないと評価されているものと考えられる。

3．社会的適応状態と諸測度との関連

本研究では，越中他（2003）に引き続き，異年齢集団における幼児の社会的適応と関連する諸要因(月齢，言語能力，社会的行動特徴）についての検討も併せて行った。結果として，男女ともに，同性からの評価，異性からの評価にかかわらず，社会的コンピタンスが，社会的適応状態と強い関連を有していることが確認された。また，越中他（2003）と同様に，女児の同性からの評価においてのみ，月齢及び言語能力が，社会的適応状態と強い関連を有していることが示された。

女児では，同性からの評価においてのみ，社会的コンピタンスと月齢及び言語能力との間に正相関が認められた。しかしながら，異性からの評価において，こうした関連は認められなかった。女児が女児集団において受容される上では，言語的にも高いコンピタンスを示す必要があるが，男児集団に受容される上では，必ずしも言語的に高いコンピタンスを示さなくともよいものと考えられる。また，女児の男児に対する評価においても，社会的コンピタンスや人気度と月齢及び言語能力との間に関連は認められなかった。女児は，同性を評価するときにのみ，月齢や言語能力を重視すると考えられる。

一方で，男児の同性からの評価においては，女児の場合とは逆に，社会的コンピタンスと月齢との間に負相関の有意傾向が認められた。また，参考までに記すと，同性からの評価においては，引っ込み思案と月齢及び言語能力との間にも負相関が認められた。さらに，先述の通り，報復的攻撃と制裁としての攻撃が，月齢の高い者に認められる攻撃タイプであるとされていた。これらを併せて考えると，男児においては，月齢の低い者ほど，大人しく，一緒に遊んでも葛藤が生じにくいため，与しやすいという点で人気があるのではないかと考えられる。月齢及び言語能力と社会的適応との関連は，男女で大きく異なる可能性が示唆された。

4．同性からの評価と異性からの評価との関連

最後に，同性からの評価と異性からの評価との関連について記す。攻撃タイプの評価に関しては，男女ともに，同性からの評価と異性からの評価とが，概ね正相関を示した。前田（1998）が指摘するように，攻撃性は頻度が少なくても仲間に与える印象や影響が強いため，評価が男女間で一貫したものと考えることができる。

社会的適応状態の指標である人気度に関しては，男児では，否定的指名得点及び好意性得点との関連において，同性からの評価と異性からの評価に正相関が認められた。男児の場合，積極的に受容される者と，拒否される者とは，評価する者の性別にかかわらず，概ね一致していると考えられる。その一方で，女児においては，同性からの評価と異性からの評価とが一致す

る傾向にあったのは，否定的指名得点のみであった。女児の場合，拒否される者は，評価する者の性別にかかわらず一致する傾向にあるが，積極的に受容される者は必ずしも一致していない可能性がある。社会的コンピタンスに関しては，女児では，同性からの評価と異性からの評価が一致する傾向にあったが，男児では一致がみられなかった。

5．まとめと今後の課題

以上，本研究においては，主に，幼児が示す攻撃タイプと幼児の社会的適応状態との関連について検討を行った。従来から，攻撃行動と仲間から拒否されることとの関連は強いが，攻撃児の全てが仲間から拒否されるとは限らないとの指摘はなされていた。しかしながら，これまでの研究においては，この問題を検討する上で，攻撃行動と他の問題行動（多動性や注意散漫，引っ込み思案など）との関連を検討することが主流であり（レビューとして前田，2002参照），攻撃性の質的相違（前田，1993）が問題とされることは少なかった。本研究は，攻撃性の質的相違によって，仲間からの評価に違いが生じることを明確にしたといえる。

今後の課題としては，縦断的な研究の必要性が挙げられる。本邦において，攻撃の持続性と仲間拒否の持続性が対応するかを検討した研究としては，前田（1998）がある。前田（1998）は，児童を対象とした２年間の縦断的研究において，攻撃性の増大が仲間拒否の増大と対応することを明らかにしている。しかしながら，攻撃の持続性と仲間拒否の持続性とが対応するかを検討した研究は数少ない現状にあり（前田，2002），特に，従来の研究においては，攻撃性の質的相違が考慮されていない。本研究の結果を踏まえると，攻撃性と社会的適応に関する縦断的研究においては，今後，攻撃性の質的相違についても考慮に入れて検討を行う必要があると考えられる。

【引用文献】

Coie, J. D., & Kupersmidt, J. B. 1983 A behavioral analysis of emerging social status in boys' groups. *Child Development*, **54**, 1400-1416.

Dodge, K. A. 1983 Behavioral antecedents of peer social status. *Child Development*, **54**, 1386-1399.

越中康治　印刷中　仮想場面における挑発，報復，制裁としての攻撃に対する幼児の道徳的判断　教育心理学研究

越中康治・中村多見・前田健一　2003　異年齢集団における幼児の社会的適応－月齢，語彙，社会的行動特徴，攻撃タイプ－　広島大学心理学研究，3，137-145.

Lesser, G. S. 1959 The relationship between various forms of aggression and popularity among lower-class children. *Journal of Educational Psychology*, **50**, 20-25.

前田健一　1995　仲間から拒否される子どもの孤独感と社会的行動特徴に関する短期縦断的研究　教育心理学研究，43，256-265.

前田健一　1998　子どもの孤独感と行動特徴の変化に関する縦断的研究－ソシオメトリック地位維持群と地位変動群の比較－　教育心理学研究，46，377-386.

前田健一　2002　攻撃性と仲間関係　山崎勝之・島井哲志（編）　攻撃性の行動科学－発達・教育編－　ナカニシヤ出版　Pp.122-134.

前田健一・片岡美菜子　1993　幼児の社会的地位と社会的行動特徴に関する仲間・実習生・教師アセスメント　教育心理学研究，41，152-160.

中台佐喜子・金山元春・前田健一　2002　幼児の仲間集団における人気度と社会的スキル－同性仲間と異性仲間からの評価－　広島大学心理学研究，2，151-157.

上野一彦・撫尾知信・飯長喜一郎　1991a　絵画語い発達検査〔1991年修正版〕　日本文化科学社

上野一彦・撫尾知信・飯長喜一郎　1991b　絵画語い発達検査手引〔1991年修正版〕　日本文化科学社